

■ 2022年度 専門学校ESPエンタテインメント大阪 自己評価報告書 ■

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

大項目	点検・評価項目	自己評価	
理念 目的 育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	
	1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	
	現状分析/総括		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「個性を活かしながら、自立した活動を確立する」ことを最大のテーマとして発信している。 ・業界から求められる人物像を育成人材像として捉え、必要とされる専門知識・技術以外に社会に適合する人物となる「人間力」の養成に注力している。 ・関連企業と連携し「超現場主義」という方針を掲げ、業界のニーズに対応した即戦力となる実践的な研修を提供している。 		
課題/目標/その他			
<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する業界ニーズに応え、なおかつ学生の希望も鑑みながら、常に社会のニーズ、動向に目を向け、時代の変化に対応した産学協同プログラムをより多く実施していく。 ・学生が自身の問題や目標を自力で解決・達成できるよう、学生の「自立」を促すキャリア養成プログラムを確立させる。 			

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学校運営	2-5 理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4	
	2-6 運営方針に沿った事業計画を定めているか	4	
	2-7 運営組織や意思決定機能は、規則等により明確化し有効に機能しているか	4	
	2-8 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	
	2-9 情報システム化による業務の効率化が図られているか	4	
	現状分析/総括		
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況においても、オンライン授業や分散授業の実施により、「専門士」に必要な総授業時間数は確保することができた。また、社会や世間のコロナ対応の動向に合わせ、衛生管理と人数制限を行い、有観客のイベント開催や学園祭での模擬店の実施など、学生のニーズに応えることができた。 ・人事考課制度に基づき、各部署上長が年に3度人事考課を行い、昇給及び賞与を決定している。 ・考課後に学校長が全職員と面談することにより、個々の問題点を早期把握し、スピード感を持って解決に努めている。 ・1年に2回、人事登用制度を実施し、基準を満たした職員の正職員化を促進している。2022年度は1名が契約社員から正社員へ、1名がアルバイトから契約社員にそれぞれ登用。職員定着率が向上したことにより、組織が安定し、継続的な教育環境の質の高さを維持することにつながっている。 ・学生/講師連絡用にGoogle ClassroomやWebシステム導入により、証明書申込やレンタル教室予約などのペーパーレス化が実現し、業務効率の向上につながることが出来た。 ・2022年度4月に導入した学生情報システムの稼働により、各部署間のデータ共有と一元化を行い、各部署の連携を強化した。 		
	課題/目標/その他		
	<ul style="list-style-type: none"> ・この3月には、学生のキャリア養成の強化を目的として、教務課と学生支援課を同じ室内に配置する部屋替えと組織変更を実施し、学生サポート体制の充実、学生満足度の向上に繋げるとともに、さらなる組織強化と各部署の連携に取り組む。 ・2023年度より経理処理に「楽楽精算」を導入し電子帳簿保存法に対応するとともに、さらなるペーパーレス化と業務の効率化を推進していく。 ・2024年度に「サウンドクリエイターコース」「ネットミュージシャンコース」を立ち上げ、ネット環境に適応した新たなコース編成に取り組んでいく。 ・2025年には夜間部の再編を目指し、新たな学びのスタイルの構築に取り組む。 		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
教育活動	3-10 教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	
	3-11 学科毎に修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4	
	3-12 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	
	3-13 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	
	3-14 キャリア教育を実施しているか	3	
	3-15 授業評価を実施しているか	3	
	3-16 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	
	3-17 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	
	3-18 資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4	
	3-19 資格取得の指導體制はあるか	4	
	3-20 資格要件を備えた教員を確保しているか	4	
	3-21 教員の資質向上への取組を行っているか	4	
	3-22 教員の組織体制を整備しているか	3	
	現状分析/総括		
	<p>・学生の個性に応じ「才能・技術・能力」を高められるよう、少人数制授業を採用し、業界のニーズに応えられる人材育成を目指し教育方針を実践している。</p> <p>・1年次10月に「Job Discovery」、2年次4月には「合同企業説明会」「ミュージック&ワーク」を対面形式で開催し、学生のキャリア養成に取り組んだ。</p> <p>・「ビジネス文書検定3級」「コミュニケーション検定初級」、「舞台機構調整技能士」などスタッフ技術に特化した検定に対応している。また、対策講座等を追加で設けたり、資格試験を本校で受験できるように認可を受けるなど、学生の資格取得率向上に向けて取り組んでいる。</p> <p>・年に2回、授業アンケートを実施し、問題があった授業に対しては、講師に内容をフィードバックし授業の質の向上につなげている。</p> <p>・成績評価においては、年度初めのガイダンスで学生に説明、シラバスにも評価基準を明記し、基準に沿った運営を行っている。</p> <p>・修了認定基準においては、学則に記載し学生告知もを行っている。</p> <p>・新年度開始前に各学科において全体講師会を実施し、授業内容の確認や指導項目のチェックなどを実施している。また、長期休暇中にもカリキュラムミーティング等を行い、情報共有することで授業の質にばらつきが出ないように取り組んでいる。</p>		
	課題/目標/その他		
	<p>・Google Classroomの運用により学生連絡や情報伝達が円滑になったが、対面による対応の必要性も感じられる。必要に応じて対面対応も随時行っていく体制を作っていく。</p> <p>・授業アンケートにおいて、前期末と後期末の年2回に加え6月にもアンケートを実施する。結果を授業へフィードバックの方法も確立させ、授業の質の向上につなげていく。</p>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学修成果	4-23 就職率の向上が図られているか	4	
	4-24 退学率の低減が図られているか	4	
	4-25 資格取得率の向上が図られているか	4	
	4-26 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	
	現状分析/総括		
	<p>・開校当初よりキャリアサポートセクションを設け、組織的な学生指導體制を築いており、教務担任と連携を図り、学生一人ひとりの状況を常に把握し、個別指導を行うことで、学園生活の充実と就職率の向上に取り組んでいる。</p> <p>【2022年度 就職関連データ】 就職希望者数 162名 就職率 87.7%（前年比0.5%増）</p> <p>・現在の多様なエンタテインメント活動に対応するため、メジャーのみならず幅広いジャンルや企業と学生をつなげるようなオーディション等の紹介や開催を実施できた。また、クリエイター志望の学生とアーティスト志望の学生をつなげるマッチングプロジェクトを実施し、学生の音楽活動の幅を広げることができた。</p> <p>【2022年度 デビュー関連データ】 オーディション件数 2022年度 90件（昨年度より3件増） 所属契約件数 12名 トライアル件数 5名</p> <p>・2022年度は前年に比べ32%程度退学者数が減少した。個別面談の充足、欠席の多い学生に対して早期の保護者連絡などの取り組み等、早期の問題解決へ向けた対応が結果につながったと感じている。</p> <p>【2022年度 進級/卒業率】 2年 卒業率 93.6%（前年比1.6%改善） 1年 進級率 86.6%（前年比3.6%改善）</p>		
	課題/目標/その他		
	<p>・退学者削減においては一定の成果は出せているものの、進級率に関しては目標の90%には達しておらず、引き続き取り組みが必要。教務の取り組みのみに頼ることなく、組織としてフォローが出来るシステム作りを目指す。</p> <p>・活躍する卒業生のみでなく、全ての卒業生の社会的評価の追跡はまだ困難を伴う。何らかのシステム構築が必要と感じる。</p>		

大項目	点検・評価項目	自己評価
学生支援	5-27 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
	5-28 学生相談に関する体制を整備しているか	3
	5-29 留学生に対する相談体制を整備しているか	4
	5-30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
	5-31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
	5-32 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4
	5-33 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
	5-34 保護者との連携体制を構築しているか	4
	5-35 卒業生への支援体制を整備しているか	3
	現状分析/総括	
<p>・就職支援、デビュー支援の部署を設置しており、専任のスタッフが就職・デビューの情報収集を行い、校内掲示やメールでの通知などにより、学生に情報提供を行っている。東京・福岡に設置する姉妹校の求人情報やオーディション情報も共有しており、幅広い情報を提供できる環境を整えている。</p> <p>・学科内で担任制度をとっており、遅刻や無断欠席の増加といった問題行動が見受けられた場合には、速やかに電話連絡等を行い、個別に問題解決に向けた取り組みを実践している。</p> <p>・留学生支援部署を設置し、専任のスタッフが対応する体制を整備している。また、留学生に向けた学校独自の奨学金制度を用意し、経済的に支援できる体制を整えている。在籍管理を適正に行っていた結果、大阪入国管理局より「適正校認定で、問題在籍者が発生しない期間が3年継続した」ことから、「適正校(在籍管理優良校)」の認定を受ける事ができた。</p> <p>・2023年度募集より、イーエスピー学園4校合同で特待生奨学金制度という、独自の奨学金制度を開始し、新たな支援体制作りに取り組んでいる。</p> <p>・隔月で保護者に向けて、「エンタ通信」という学校情報冊子を郵送し学校情報の共有に努めているほか、学期終了後には成績表と出席状況を郵送し、学生の状況を伝える体制を整えている。</p> <p>・スタジオレンタル及び奨学金面談の予約システムを構築し、より学生が利用しやすい環境構築に取り組んだ。</p>		
課題/目標/その他		
<p>・留学生に関しては、教育の部分だけでなく、日本の習慣・常識・法律解釈など、日常生活に必要なアドバイスや相談も行っているため、組織的・人的拡充が必要となってくる可能性有り。引き続き安心して生活、就学できる環境づくりに取り組む。</p> <p>・イーエスピー学園独自の特待生奨学金制度を継続して実施し、さらなる拡充を目指す。</p> <p>・2023年度より学生支援室のリニューアルを行い従来の2倍の学生支援スペースを確保し、面談スペースに加え自習エリア、PC閲覧エリアも拡充し学生サービスの向上を図っている。</p> <p>・昨今、増加傾向にある身体的及び精神的な体調不良者のケアに関して、組織的な取り組みを充実させる必要性を感じる。医師やメンタルケアとの連携に関しての取り組みを検討していく。</p> <p>・現在、隔月で保護者向けに郵送している「エンタ通信」は、保護者が確認しやすいよう、Eメールを使用した配信に切り替え、学校情報を提供していく。</p>		

大項目	点検・評価項目	自己評価
教育環境	6-36 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
	6-37 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3
	6-38 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
	6-39 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4
	現状分析/総括	
<p>・「超現場主義」を標榜し、年間約50箇所を超える大規模な音楽フェスティバルやメジャーアーティストのコンサート等へ、学生をインターンシップとして参加させている。2022年はエンタメ業界の復活が著しく、昨年は過去最高のイベント研修(63現場、161日)に参加した。</p> <p>・本校の姉妹校となる、全米音楽学校協会に認可された音楽学校「ミュージシャンズ・インスティテュート・ハリウッド」への海外研修制度を設けており、短期間ではあるが生活環境も含めて本場アメリカのエンタテインメントを経験できる貴重な機会を設けている。2020年2021年はコロナの影響により中止。昨年度は、渡航費の大幅な高騰の影響により参加希望者が定員に満たず中止となった。</p> <p>・学校防災計画及び学校災害対策規定を設けており、火災震災に備えた「災害避難訓練」を全学生、職員と共に毎年実施している。2022年度も昨年同様、コロナ対策として校内放送によるシミュレーションでの実施となった。</p> <p>・今年度も引き続きコロナ対策として、エントランスでの検温の実施や、各教室や職員デスクへのパーテーションの設置、消毒用アルコールの設置、定期的な換気作業など、徹底した感染対策を継続して行った。また、ホームページ上でコロナの学内状況や感染対策を定期的に掲示し、学生及び保護者に情報が正しく伝わるように取り組んだ。</p>		
課題/目標/その他		
<p>・2023年度は多くのイベント開催がアナウンスされているため、感染対策にも留意した上で、積極的に研修参加する予定。</p> <p>・今年度の避難訓練に関しては、状況を鑑みつつ、従来の避難訓練を実施する予定。</p>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学生の募集と受け入れ	7-40 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	
	7-41 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3	
	7-42 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	
	7-43 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	
	7-44 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	
	7-45 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	
	現状分析/総括		
	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は、年間30回のオープンキャンパスを開催。入学希望者や保護者に対して、学科別カリキュラム、学納金、就職・デビュー状況、学校生活全般についての説明を行っている。参加者や保護者に対して別途個別相談ブースを設けて、より具体的な対応ができる環境を整えている。 ・体験授業、個別学校説明会等において、オンライン形式での対応も実施。ニーズに合わせた幅広い形で対応している。 ・来校が困難な地方都市へ向けて年間2回、職員が出向き、コロナ対策を徹底した上で、出張説明会や出張体験授業を実施した。また、遠方の方のために実施していた無料送迎バスを今年度は廃止し、かわりに交通費補助制度として交通費サポートチケットを配布し、来校負担の軽減に取り組んだ。 ・高等教育の修学支援制度の対象機関として、適正な対応をしている。入学者が給付型奨学金対象者の場合、採用決定通知等の証明書類の提出を条件に入学前の学費納入を相殺方式とし、入学者の経済的な負担軽減に努めている。 		
	課題/目標/その他		
	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスの参加者より集めたアンケート内容を分析し、より適切な募集活動につなげられるよう、有益な情報活用の確立を目指す。 ・大阪府の高校生の認知度を上げるために、軽音楽部との連携を深め認知度アップにつながる施策を行う。 		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
財務	8-46 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	
	8-47 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	
	8-48 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	
	8-49 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4	
	8-50 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4	
	8-51 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	
	現状分析/総括		
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化やコロナ禍の影響も有るが、一定の入学者進級者数を安定的に確保できている。学校法人全体で見ても概ね健全な状態にある。 ・施設、設備の経年劣化による修復、補修等が増加傾向にあるが、単年計画・中長期計画をベースに教育環境を継続して整えている。 ・コロナ禍において標準化してきたオンライン授業に円滑に対応できるよう、インフラ強化を行った。 ・財務情報については、学校法人イーエスピー学園サイトで公開を実施している。 		
	課題/目標/その他		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の充実を維持継続するには、多種多様な要因に左右されない財務基盤の充実と強化が必要となる。具体的には、入学者の一定数確保及び退学者数の低減対策による進級者の適正数確保を図り、学費収入を安定させて財務基盤を整える。 ・私立学校法に基づいた、管理、分析、運用を適正に行なっていく。 		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
法令等の遵守	9-52 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	
	9-53 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	
	9-54 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	
	9-55 自己評価結果を公表しているか	4	
	9-56 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	
	9-57 学校関係者評価結果を公表しているか	4	
	9-58 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	
	現状分析/総括		
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護の内部規程を整備し、各部署での取り扱いが適切に行われるよう、体制づくりを強化した。また、今年度より学園4校の管理職に向けて、eラーニング学修を定期的実施し、個人情報保護のコンプライアンス強化に取り組んでいる。 ・自己評価委員会を設置し、自己点検の位置づけ、目的、方針を確認し、自己点検・自己評価を実施している。また、自己評価結果は本校ホームページで公開している。 ・学校が選任する学校関係者によって、自己評価の結果を評価する「学校関係者評価」の実施し、評価結果を本校ホームページで公開している。 ・2022年11月大阪府の令和4年度補助金等執行検査が実施され事務処理上の注意点が明確になったため、煩雑な事務処理をスムーズに進められるよう改めて体制を整えた。 		
	課題/目標/その他		
<ul style="list-style-type: none"> ・各種法令及び個人情報保護に関しては、新規入社が多い新年度4月を「重点実施月」と位置づけ、教育・周知活動を徹底し、全職員が同水準の理解度で業務にあたれるよう継続して取り組む。 ・評価の過程を通じ、関係者の理解と協力を得ると共に、第三者目線でのアドバイスから新たな施策を取り入れ、特色ある学校づくりにつなげる。 ・修学支援新制度専任社員を配置し、各部署との連携を強化する。 			

大項目	点検・評価項目	自己評価	
社会貢献 地域貢献	10-59 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	
	10-60 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	
	10-61 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3	
	現状分析/総括		
	<p>・今年度は大阪府軽音楽連盟主催の「High School Live」を本校ホールにて開催した。顧問教諭の方々との打ち合わせや出来る限りの感染症対策を行い、無観客は限定配信、有観客は部員の方々のみ観覧など校内のホール施設や機材の随時提供を行った。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響で自粛されていた町興し等の地域行事も少しずつ再開され、地場振興の一環として地元の祭事に学生が出演者やスタッフとして参加した。</p> <p>・本校の奨励、支援のもと、毎年学生が主体となり、「2年間お世話になった中津を盛り上げたい！恩返ししたい！」をコンセプトとした卒業制作イベント「ディプロママーケット」を実施している。学生達で実行委員会を設け、近隣の福祉会館、カフェ、レストラン、ライブハウスを会場とし、地域の活性化に貢献した。今年度は有観客で実施した。出演アーティスト合計97組、来場者820名と学生主催イベントとしてはかなり大規模なイベントとなっている。</p>		
	課題/目標/その他		
<p>・来期は本校が開催するイベント以外にも、様々な近隣で開催予定の地域活性化イベントにも積極的にコラボレーション参加し、状況に応じた感染症対策を講じて、社会貢献・地域貢献・ボランティア活動に積極的な参加を目指す。</p>			